

クラス担任のための Career Guidance

2018 >> VOL.41

「キャリアガイダンス 特別編集」

RECRUIT



「PBIS実践マニュアル&実践集」

栗原慎二編著
ほんの森出版

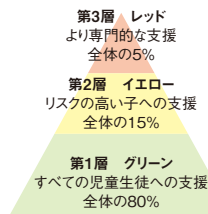
広島大学大学院教育学研究科教授・栗原慎二先生が中心となり、日本でのPBISの実践を行ってきた小学校～高校までの先生方の実践例とともに、PBISの考え方や取り組み方を紹介する。PBISの実践で使えるカードやワークシートも収録されている。

■ PBISとは

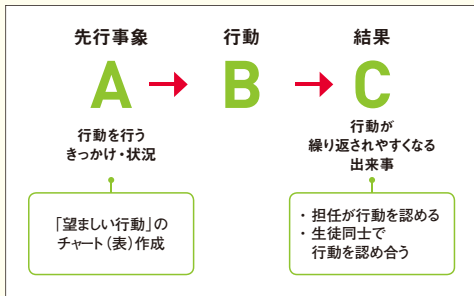
すべての児童生徒が学業においても行動においても最大限に成果を出せるように、全校規模で取り組む行動支援の仕組み。1996年にアメリカで開発され、現在、全米の初等中等教育学校の約20%（約2万6000校）が導入。近年、日本でも注目されるようになってきた。

「すべての児童生徒」を対象とすることから、学校・学級全体を対象とする第1層（グリーン）、その指導では行動を最適にできなかった子どもを対象とする第2層（イエロー）、さらに、もっと専門性が求められる対応が必要となる第3層（レッド）の、それぞれの活動やデータ分析などをシステムとして構築している。

●PBISの三層構造



●学級で取り組むPBISの「行動のABC」

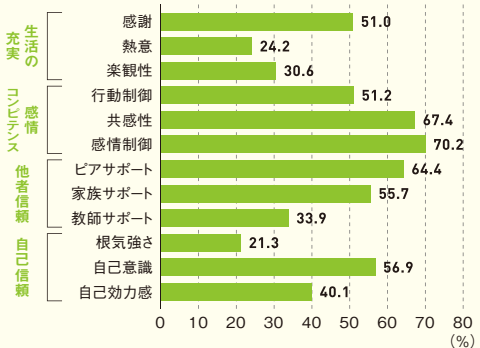


応用行動分析の枠組みに基づいて、子どもの望ましい行動を引き出すようなきっかけ・状況(A)を積極的につくり、望ましい行動(B)ができれば、それに好ましい結果(C)が伴うようにすることで、望ましい行動を自発しやすく、続けやすい環境をつくっていく。
※「PBIS実践マニュアル&実践集」より抜粋

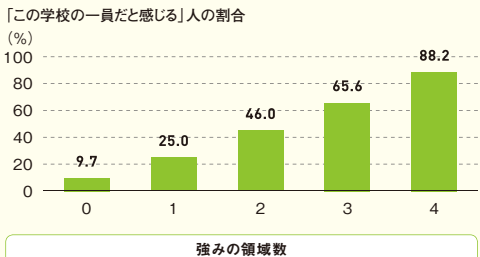
■「強み」が多いほど、学校への親和性が高い

心身の健康や学業成績と関連があるとされる12の強みの要素と4つの領域(図)。これらは、それぞれに相乗効果があり、強みの要素が多い高校生ほど学校への親和性や生活満足度が高まることから、筑波大学人間系心理学域・飯田順子准教授らの研究で示されている。高校生の強みで低かった「自己効力感」「根気強さ」などの自分への信頼や、「楽観性」などを高める意味でも、ポジティブなフィードバックにあふれたクラスづくりは不可欠と言えるだろう。

●高校生の強み領域／個人の強み



●強みの数と学校への親和性



※「高等学校における「学校全体メンタルヘルスクリーニング」の実践」調査2016年度より

データで振り返る

生徒が自主的に活動できる元気なクラス。そんなクラスづくりを継続していくためのヒントをご紹介します。

ポジティブなクラスづくりの方法

「目標と具体的な行動」を決め「認め合う」ことでポジティブに

新学期がスタートする4月は、さまざまなワークを実施して生徒同士のコミュニケーションを活性化させ、雰囲気づくりに力を注ぐ先生は多いはず。しかし、2カ月経ち、3カ月経ち、と時間の経過とともに、クラスに活気が感じられなくなったり、受け身な雰囲気が蔓延したり…。学力の3要素の一つ、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を育む意味でも、1年間を通じたクラスの雰囲気づくりが重要な課題となっている。

そこで、今回注目したのが、アメリカで開発されたPBIS(Positive Behavioral Interventions and Supports)／ポジティブな行動介入と支援」という取り組み。これは、応用行動分析の理論をベースに、「望ましい行動」を増やしていくことで、結果的に問題行動も減少させるもの。学校や学級などの集団全体でシステムとして行う取り組みだ(コラム参照)。

その中でも、まず「すべての生徒への支援」となる第1層へのアプローチは、教師が中心となってクラス全体(学校全体)に働きかける部分で、クラスづくりへのヒントに満ちている。「PBIS実践マニュアル&実践集」によると、クラスで取り組む際には、まずクラス全体で「ありがたい姿」や「大切にしたい価値観」を話し合い、それを体現する具体的な「いい行動」を挙げてチャート(表)にする(コラム「行動のABC」のA)。そして、いい行動(同「行動のABC」のB)を目にしたら「ありがたそう、よかったよカード」や「ポジティブカード」などを先生が生徒に贈ったり、生徒同士が交換する。さらに、カードのやりとりを「データ」として分析する。それによって効果があまり見られない場合は、どんな取り組みを行えばもっといい行動ができるかを、クラス全体で再検討していくことが大切だ。

つまり、PBISを実践すると、最初に「いい行動」が具体的に「望ましい行動」のチャート(表)作成

データに基づいた行動のフィードバックが重要

クラスの目標や「ありがたい姿」を決めたり、行動を認め合うワークなどは、これまでも多くの先生方が取り組んでこられたことでもある。そのようなかで今回注目したPBISの大きな特徴のつは、必ず「データ」に基づいて取り組みを分析し、継続的に進化させていくという点にある。例えば、「ポジティブカード」の交換やクラスとしての望ましい行動の振り返りは定期的に行い、必ずデータとして分析する。それによって効果があまり見られない場合は、どんな取り組みを行えばもっといい行動ができるかを、クラス全体で再検討していくことが大切だ。

編著者である栗原慎二氏は、「主観的データ」ではなく「蓄積された客観的データ」を、

観的データ」を、「経験」ではなく「理論に照らし合わせて」「個人」ではなく「チームで」「直観」ではなく「熟議によって判断」し、「叱責や制裁的指導によって問題行動を減らす」とするのではなく「ポジティブな介入によってポジティブな行動を増やす」あり方がPBISだと説く。

心・安全・清潔」「時間・自分を大切にすること」という3つの行動目標を決定し、具体的な行動目標は各人が作成。LHRで毎週、生徒はできたことをチェック。その際、「仲間のよいところ紹介」も書き込むようにし、学級の風土の育成を目指した。5月と7月には、望ましい行動についての自己評価アンケートを実施し、その変化を分析。すると、受験勉強が本格化していく中でも、「仲間を大切にしている」

動ができているという評価ポイントが女子の中で上がり、「他の人の役に立ちたい、人のよいところを見つけた」と思えるようになった」というコメントも見られたという。

高校生の主体的な進路選択を支援する先生のための進路指導・キャリア教育専門誌

Career Guidance

キャリアガイダンス

編集協力委員を募集中です



編集協力委員の方へは『Career Guidance』と小誌『クラス担任のためのCareer Guidance』を毎月ご自宅宛てに郵送でお届け！

進路指導・キャリア教育の専門誌『キャリアガイダンス』に毎月付いている読者アンケートや年数回の編集部からのアンケートにご協力いただけるモニター制度です。編集協力委員にご登録(無料)いただきますと、『Career Guidance』と小誌『クラス担任のためのCareer Guidance』を毎月ご自宅にお届けいたします。進路指導やキャリア教育に関する最新のテーマやトピックス、独自の統計データ等が満載の読み応えのある内容です。またメールマガジンにて、毎月2回、リクルート進学総研の各種調査や教育関連イベントの情報などをタイムリーにお届けします。ぜひ、充実した情報を先生方の現場での実践にお役立てください。

お申し込み方法

- ① お名前
 - ② メールアドレス
 - ③ ご自宅住所
 - ④ 勤務先高校名
 - ⑤ 校務分掌
- を明記のうえ、下記アドレスにメールください。
※高校教員以外の方はご応募いただけません。

E-mail → career@r.recruit.co.jp